

平成 30 年度 第 6 回外来生物等対策部会 議事概要

日時：平成 31 年 1 月 25 日（金）13：30～15：50

場所：リブラ若狭 2 階 第一会議室

参加者：18 名

1 開会 あいさつ

2 ヒシ対策について

- ・資料 1 に基づき、過去の三方湖におけるヒシの繁茂状況（2008 年から湖面の占有面積が増大）、外来生物部会によるヒシ対策の取組み（短期・中期・長期目標の再確認、ハーベスターによる刈取り、ワイヤー刈りの手法確立、ハーベスターとワイヤー刈りの刈取り効率の比較、ゾーニング管理計画と実際の刈取り場所が少しずれている等）を説明し、あわせて今後の課題の提示。
- ・県からの昨年の事業報告は次回以降

【議事概要】

- ・今年はヒシ種子が畑等に打ち上げられ、トラクターのタイヤがパンクするなどの被害が出た。
- ・畑等に流れ出たヒシは、刈り取りにより出たヒシよりも、大型台風で切れたヒシ。ヒシを刈取った結果、ヒシが流れやすくなったのは事実だが、刈り取ったヒシは回収したので、流出量自体は少なくなったと考えられる。流出が課題であれば、流出しやすいヒシから刈取りをする等の優先順位をつけるなどの方法があると思う。
- ・地域住民の意見を聞き、三方湖のヒシ対策ゾーニングの見直しを。
- ・今年はずっと早く刈り取れると良い
- ・初年度だったので段取りに時間を要したが、今年はずっと早く刈り取れるだろう。
- ・ヒシ対策について、どのようなことが望まれているのかを整理する必要がある。
- ・ヒシの流出防止対策は、ロープを張る、以外にどのような方法があるか？
- ・効果的、効率的な方法はやはりロープを張ることではないか。台風による流出が問題なので、8 月・9 月に対策をする必要がある。
- ・刈取りに早く取り掛かれるように、ハーベスターの導入を検討してほしい。
- ・早くに取り組むことが目的であれば、ヒシの繁茂が薄い時期にハーベスターを動かしても空回りをするので非効率である。ワイヤー刈りのほうが効率的である。今年、ワイヤー刈りで湖面の 60% の面積を刈り取れた。また、今年度比較して、ワイヤー刈りの方が効率的であった。1 台のハーベスターを動かすより、今ある船舶を動かして刈り取るのが良い。
- ・単位面積当たりの費用はハーベスターの方がはるかに高い。またハーベスターを購入するとなると購入費に加え、維持管理費・オペレーターの人件費もかかってくる。
- ・お金を地元にとどめることを考えても、ワイヤー刈りが良い。
- ・今後刈取りがさらに進めば、どこを刈るか、ではなく、どこを残すか、ということができるようになる。
- ・今後は地域住民の意見を聞いていく、またヒシの流出防止対策を考える。
- ・流出防止対策を今後、協議会の課題とするのであれば、費用はつくのか。

- ・土木部局も河川管理の予算を持っている。流出防止を誰がやるか、でなくどうやるかについて協議会で提案できるとよいのではないか。
- ・要望されたときに示せるように、協議会で議論したい。
- ・コーディネータはできる。そのために4月に盛んに会合を開く必要がある。

3 前回のふりかえり

参考資料2に基づき前回の振り返り

4 アカミミガメ対策について

- ・三方五湖アカミミガメ防除実施計画（案）について、防除計画に必要な項目を盛り込んで案作りをさせてもらってよいか。
- ・了解。

○資料3に基づき、具体的なモニタリングの方法を説明。

【議事概要】

- ・4月なら行事が比較的少なく、海浜自然センターは手伝いやすい。
- ・行政がコアに、ということだが、漁協に動いてもらう、相談に乗ってもらう、というのがまずは重要。
- ・本日鳥浜漁協は欠席だが、話をしたところ協力すると聞いている。
- ・モニタリングを継続するにはコアとなる組織が必要。生物調査を6-7年継続して実施しているが、若狭高校、大学がコアになっているから継続できている。どこかがコアになって担当できると良いが。海浜自然センターで受けてもらえないか。
- ・若狭町歴史文化課は外来生物部会の事務局なので、受けてもらえないか。
- ・4-5月はイベントが少ないのでできるかもしれない（※渡主任より、候補日としては5月25日（土）。今月中に美浜町役場、若狭町役場と調整してほしい、と連絡あり）。子どもさんの体験活動というよりも、カメ駆除大会という感じか。
- ・海浜自然センターの無理の無い範囲で。美浜町はどうか。
- ・協力はできるが、フリーザーや殺処分施設がなく体制がない。
- ・外来生物部会としてのイベントなので、外来生物部会のフリーザー（若狭町管理）やエコクルの使用もできるのでは。
- ・開催に合意いただけるのであれば、イベントの実施に向けて事務作業を進めていく。
- ・やるところが湖なので、漁協の協力が必要。協力してもらえるか。
- ・南西郷漁協は協力できる。頭を一つに決める必要がある。町をまたいでも大丈夫な海浜自然センターが良いのでは。
- ・一か所に負担が集中しないよう、フォローが必要。

5 外来魚対策について

【議事概要】

- ・外来魚対策も同じように進めていきたい。これまでに県大から調査報告をいただいている。カメでうまくいけば外来魚対策もうまくいくのでは。
- ・ハス川の河口で6-8月、10-12月に袋網を用いた捕獲（モニタリング調査）を継続して行いたい。昨年6-8月は野鳥の営巣に配慮し調査を控えたが、東大の実習に組み入れることで継続調査しやすい。10月は海浜自然センターのイベントに組み入れることで継続性を確保したい。
- ・モニタリング調査はある程度できている。一斉駆除活動はできないのか。
- ・ブルーギルの動態把握は難しく、一斉駆除をしてもたくさん捕れるかどうか分からない。いまのところ、お金をかけて一斉にやっても効率的に捕れるかどうか、疑問。
- ・漁協は個体数を減らさなければいけないという危機感はあるのか。あるいは現状維持でも良いと思っているか。
- ・今年、ブルーギルが1匹もかからない。変化がつかみにくい。どう減らしたらいいか良く分からない。
- ・どのレベルで頭打ちにするのか。九頭竜ダムでのコクチバス駆除イベントは、漁業者、ダム管理者、ボランティア等参加者全員の目的は違うがメリットがあるから、継続できている。三方湖はどこを目指すのか。ブルーギルがいなくなると、漁業者は資源が確保できるのか、地元は観光資源の価値が上がるのか。自発的な活動でなく、人から言われてやる作業は継続しない。内水面総合センターとしては、今後も三方湖のモニタリングは継続して行える。
- ・体制としては外来部会で考えていかないといけない。モニタリングは継続する必要がある。一斉駆除が必要でない、というわけではないが、そのタイミングをはかるためのモニタリングが大切。

6 今後の予定について

- 全体会は3月21日（日・祝）
- 次回部会は、2月～3月時期に開催予定。カメ、外来魚の来年以降のモニタリング体制について説明。
- 来年度1回目、東大吉田先生の予定に併せて4月に実施の予定。